

平成 20 年 3 月期 第 1 四半期財務・業績の概況



平成 19 年 8 月 6 日

上場会社名 株式会社 J - オイルミルズ
 コード番号 2613
 代表者 代表取締役社長 佐々木 晨二
 問合せ先責任者 経理部長 立見 健一

上場取引所 東証一部・大証一部
 (URL <http://www.j-oil.com/>)

TEL (03) 5148 - 7100

(百万円未満切捨て)

1. 平成 20 年 3 月期第 1 四半期の連結業績 (平成 19 年 4 月 1 日 ~ 平成 19 年 6 月 30 日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
20 年 3 月期第 1 四半期	44,321	6.5	1,070	44.3	1,555	29.1	1,069	13.2
19 年 3 月期第 1 四半期	41,634	2.7	1,922	1.5	2,194	2.6	1,232	23.5
(参考)19 年 3 月期	163,393		6,035		6,954		4,508	

	1 株当たり四半期 (当期)純利益	潜在株式調整後 1 株当たり四半期 (当期)純利益
	円 銭	円 銭
20 年 3 月期第 1 四半期	6.39	-
19 年 3 月期第 1 四半期	7.42	-
(参考)19 年 3 月期	27.02	-

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1 株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
20 年 3 月期第 1 四半期	144,372	64,966	45.0	388.68
19 年 3 月期第 1 四半期	134,725	61,442	45.6	367.56
(参考)19 年 3 月期	143,942	64,176	44.6	383.99

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
20 年 3 月期第 1 四半期	2,657	1,179	1,229	5,138
19 年 3 月期第 1 四半期	566	1,334	909	4,784
(参考)19 年 3 月期	3,704	2,805	5,623	4,889

2. 配当の状況

当社は、第 1 四半期末を基準とした配当を行っておりません。

配当予想に関しては、前回(平成 19 年 5 月 14 日)発表の予想(年間 6 円、中間 3 円)を変更しておりません。

3 . 平成 20 年 3 月期の連結業績予想 (平成 19 年 4 月 1 日 ~ 平成 20 年 3 月 31 日)【参考】

前回 (平成 19 年 5 月 14 日) 発表の連結業績予想を変更していません。

4 . その他

- | | |
|---|-----|
| (1)期中における重要な子会社の異動 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) | : 無 |
| (2)会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 | : 有 |
| (3)最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 | : 無 |

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記に記載した予想数値は、本資料の発表日現在において入手可能な情報にもとづき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。

なお、上記業績予想に関する事項は、添付資料の 4 ページをご参照下さい。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第 1 四半期におけるわが国経済は、企業収益の改善や個人消費の持ち直しにより、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。しかしながら、海外原料の依存度が高い食品産業においては、昨年度から続くバイオ燃料需要や円安による原料コスト高騰が負担になっています。当第 1 四半期においても、海外原料相場の高騰は留まるどころを知らず、想定を大きく超える水準に達しております。製油産業におきましては、主原料である大豆のシカゴ相場は、1 ブッシェル当たり 7 米ドル後半という高値で始まり、6 月に 8 米ドル台を一気に突破し、7 月には 9 米ドル台に達する、という想定外の高騰で推移しております。もうひとつの主原料である菜種も高騰しており、ウィニペグ相場は、トン当たり 3 6 0 加ドル台から上昇を続け、6 月には 4 0 0 加ドルを窺い、遂に 7 月に 4 0 0 加ドルを突破するに至りました。一方、為替相場につきましては、4 月は 1 1 9 円台中心で推移したものの、以降、円安が進み、6 月には 1 2 4 円台に達しました。原料・為替相場以外の要因についても、海上運賃の高騰や包材費の上昇などが発生し、環境が厳しさを増しております。

このような事業環境のもと、油脂部門におきましては、提案・技術支援型の営業活動に努めると共に、製品価格の是正を併せて行い、一定の成果は実現しましたが、まだ十分とはいえない状況であります。

油糧部門では、菜種ミールの飼料用需要が堅調に推移しましたが、大豆ミールが前年同様、輸入ミールとの競合等により厳しい販売環境が続きました。この結果、販売数量は前年同期を下回る^{たくま}こととなりました。

また当社は、「Change & Strong 変えよう 逞しく」をスローガンとした第二期中期経営計画（平成 20 年 3 月期を初年度とする 4 カ年計画）を策定し、その初年度として、継続的なコストダウンへの挑戦、価格是正力の強化やプロダクトミックスの推進による営業力の強化、新商品の積極的な上市及び拡販、既存の戦略商品の育成・拡販等の重点施策を推進しております。

以上の結果、当第 1 四半期の業績は、売上高 443 億 21 百万円（前年同期比 6.5% 増）、営業利益 10 億 70 百万円（前年同期比 44.3% 減）、経常利益 15 億 55 百万円（前年同期比 29.1% 減）、四半期純利益 10 億 69 百万円（前年同期比 13.2% 減）となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第 1 四半期末の総資産は、前期末と比べ 4 億 30 百万円増加し、1,443 億 72 百万円となりました。固定資産の増加が 7 億 63 百万円となり、流動資産の減少 3 億 33 百万円を上回ったことによります。主な増加は、現金及び預金 2 億 48 百万円、原料調達価格の更なる上昇影響でたな卸資産 2 億 35 百万円、時価変動を主因とする投資有価証券 6 億 16 百万円、主な減少は、受取手形及び売掛金 11 億 23 百万円であります。

負債は、前期末と比べ 3 億 60 百万円減少し、794 億 6 百万円となりました。固定負債の減少が 9 億 88 百万円となり、流動負債の増加 6 億 27 百万円を上回ったことによります。主な減少は、支払手形及び買掛金 6 億 67 百万円、短期・長期借入金 5 億 56 百万円、負ののれん 2 億 70 百万円、主な増加は、未払金・未払費用の増加 11 億 85 百万円であります。

純資産は、前期末と比べ 7 億 90 百万円増加し、649 億 66 百万円となり、自己資本比率は 0.4% 増加いたしました。

（連結キャッシュ・フローの状況）

当第 1 四半期末における現金及び現金同等物は、前期末と比べ 2 億 48 百万円増加し、51 億 38 百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、前年同期と比べ 32 億 24 百万円増加し、26 億 57 百万円のプラスとなりました。この主な要因は、税金等調整前四半期純利益が微減となりましたが、売上債権の減少、前年同期と比べ仕入債務の減少額が小さかったこと、法人税の支払額の減少などによります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、前年同期と比べ 1 億 54 百万円支出額が減少し、11 億 79 百万円のマイナスとなりました。この主な要因は、設備投資による支出が減少したことによります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、前年同期と比べ 21 億 39 万円減少し、12 億 29 百万円のマイナスとなりました。この主な要因は、法人税の支払を含む季節的な運転資金が前年同期に比べ減少したため、短期借入金による資金調達が 17 億円減少したことや、長期借入金を返済したことによります。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

製油事業におきましては、原料である大豆および菜種の国際相場が上昇を続けており、当初計画の想定を超える勢いであります。一方製品価格面では、ミールが海外相場における油高・ミール安の影響を受けております。為替相場も円安傾向で推移しております。以上の事から、油コスト負担は増加しており、第 2 四半期以降も更に原料コストの上昇、厳しいミールの販売環境の中での事業運営となることを想定しております。

油コストの急騰に対し、全力を挙げて製品価格の是正に取り組んでおります。また、更なるコストダウン、経費の削減など効率化に取り組み、付加価値商品の拡販にも注力をしてまいります。

原料コストの上昇に対して、当社は、原料コストの水準が従来と全く変わった事、そして継続する見通しである事についてお客様に説明を行い、製品価格の是正に努めております。昨今、食糧価格の変動についての TV や新聞などのマスコミの報道が目立つ一方、マヨネーズやマーガリンなど、油を原料とする製品価格の値上げ改訂もはっきりとした動きを示しております。大豆や菜種などの原料コストの上昇が製品価格に転嫁される事への、お客様そして消費者の理解も進んできている事の現われであります。以上、大幅な原料コストが見込まれる環境ではありますが、お客様からの原料と価格についての理解が深まってきている事もあり、尚一層精力的に製品価格の是正に取り組んでまいります。

以上の事から、当期の業績予想に関しては、上期及び通期とも前回（平成 19 年 5 月 14 日）発表の数値に変更はありません。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 会計処理の方法における簡便な方法の採用

法人税等の計上基準について年間予測税率を採用しております。

その他影響額が僅少なものにつき一部簡便的な方法を採用しております。

(3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更

該当事項はありません。

5 .(要約) 四半期連結財務諸表

(1)(要約) 四半期連結貸借対照表

(単位 : 百万円)

科目	当第 1 四半期 平成 19 年 6 月 30 日現在		前連結会計年度 平成 19 年 3 月 31 日現在		増 減 金 額	前年同四半期 平成 18 年 6 月 30 日現在	
	金 額	構成比 %	金 額	構成比 %		金 額	構成比 %
資産の部							
流動資産							
1 現金及び預金	5,138		4,889		248	4,784	
2 受取手形及び売掛金	32,851		33,974		1,123	27,858	
3 たな卸資産	29,964		29,728		235	24,326	
4 その他	4,142		3,837		305	4,109	
流動資産合計	72,096	49.9	72,430	50.3	333	61,078	45.3
固定資産							
1 有形固定資産	56,269		55,903		366	57,445	
2 無形固定資産	2,485		2,712		227	3,389	
3 投資その他の資産	13,521		12,896		624	12,811	
固定資産合計	72,276	50.1	71,512	49.7	763	73,646	54.7
資産合計	144,372	100.0	143,942	100.0	430	134,725	100.0
負債の部							
流動負債							
1 支払手形及び買掛金	14,594		15,261		667	12,621	
2 短期借入金	25,967		25,807		160	19,316	
3 その他	11,344		10,209		1,134	11,336	
流動負債合計	51,906	36.0	51,278	35.6	627	43,275	32.1
固定負債							
1 長期借入金	14,986		15,703		717	16,963	
2 繰延税金負債	6,559		6,407		152	5,929	
3 退職給付引当金	2,820		2,957		136	3,119	
4 負ののれん	812		1,083		270	1,895	
5 その他	2,320		2,336		15	2,099	
固定負債合計	27,499	19.0	28,487	19.8	988	30,007	22.3
負債合計	79,406	55.0	79,766	55.4	360	73,283	54.4
純資産の部							
株主資本							
1 資本金	10,000	6.9	10,000	7.0	-	10,000	7.4
2 資本剰余金	31,634	21.9	31,634	22.0	0	31,633	23.5
3 利益剰余金	19,448	13.5	19,047	13.2	400	16,273	12.1
4 自己株式	133	0.1	128	0.1	4	112	0.1
株主資本合計	60,949	42.2	60,553	42.1	396	57,794	42.9
評価・換算差額等							
1 その他有価証券評価差額金	3,883	2.7	3,665	2.6	217	3,637	2.7
2 繰延ヘッジ損益	58	0.0	79	0.1	137	3	0.0
3 為替換算調整勘定	74	0.1	36	0.0	38	6	0.0
評価・換算差額等合計	4,017	2.8	3,623	2.5	393	3,648	2.7
純資産合計	64,966	45.0	64,176	44.6	790	61,442	45.6
負債及び純資産合計	144,372	100.0	143,942	100.0	430	134,725	100.0

(2)(要約) 四半期連結損益計算書

(単位 : 百万円)

科目	当第 1 四半期		前年同四半期		増 減	前連結会計年度	
	平成 19 年 4 月 1 日 平成 19 年 6 月 30 日		平成 18 年 4 月 1 日 平成 18 年 6 月 30 日			平成 18 年 4 月 1 日 平成 19 年 3 月 31 日	
	金 額	百分比	金 額	百分比	金 額	金 額	百分比
		%		%			%
売上高	44,321	100.0	41,634	100.0	2,686	163,393	100.0
売上原価	36,952	83.4	32,811	78.8	4,140	130,937	80.1
売上総利益	7,368	16.6	8,823	21.2	1,454	32,455	19.9
販売費及び一般管理費	6,298	14.2	6,900	16.6	602	26,420	16.2
営業利益	1,070	2.4	1,922	4.6	851	6,035	3.7
営業外収益	639	1.4	377	0.9	261	1,518	0.9
営業外費用	154	0.3	105	0.2	48	599	0.3
経常利益	1,555	3.5	2,194	5.3	639	6,954	4.3
特別利益	373	0.9	1	0.0	372	1,722	1.0
特別損失	131	0.3	202	0.5	70	1,596	1.0
税金等調整前四半期 (当期) 純利益	1,797	4.1	1,993	4.8	195	7,081	4.3
法人税等	727	1.7	760	1.8	32	2,572	1.5
四半期 (当期) 純利益	1,069	2.4	1,232	3.0	162	4,508	2.8

(3)(要約) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	当第1四半期 (自平成19年4月1日 至平成19年6月30日)	前年同四半期 (自平成18年4月1日 至平成18年6月30日)	前連結会計年度 (自平成18年4月1日 至平成19年3月31日)
区 分	金 額	金 額	金 額
営業活動によるキャッシュ・フロー			
1 税金等調整前四半期(当期)純利益	1,797	1,993	7,081
2 減価償却費	1,460	1,426	5,802
3 負ののれん償却額	270	270	1,083
4 持分法による投資損益(益:)	45	12	55
5 引当金の増減額(減少:)	730	767	178
6 売上債権の増減額(増加:)	1,123	215	6,331
7 たな卸資産の増減額(増加:)	235	26	5,373
8 仕入債務の増減額(減少:)	667	2,176	517
9 未払金・未払費用の増減額(減少:)	1,185	1,221	162
10 その他	518	376	349
小 計	3,099	1,601	132
11 利息及び配当金の受取額	306	84	241
12 利息の支払額	89	56	307
13 特別加算退職金の支払額	16	21	72
14 法人税等の支払額	642	2,174	3,434
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,657	566	3,704
投資活動によるキャッシュ・フロー			
1 固定資産の取得による支出	969	1,259	4,931
2 固定資産の除却による支出	35	97	491
3 固定資産の売却に伴う収支	4	29	2,540
4 投資有価証券の取得による支出	171	5	37
5 その他	1	0	114
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,179	1,334	2,805
財務活動によるキャッシュ・フロー			
1 短期借入金の純増減額(減少:)	200	1,900	8,100
2 長期借入金の返済による支出	756	481	1,451
3 自己株式の取得又は売却による収支	4	7	23
4 配当金の支払額	668	502	1,001
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,229	909	5,623
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	-	-
現金及び現金同等物の増減額(減少:)	248	991	886
現金及び現金同等物の期首残高	4,889	5,775	5,775
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	5,138	4,784	4,889

(4) セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

当第 1 四半期 (自 平成 19 年 4 月 1 日 至 平成 19 年 6 月 30 日)

(単位: 百万円)

	製油関連	その他	計	消去又は 全社	連結
・売上高及び営業損益					
売上高					
1. 外部顧客に対する売上高	40,814	3,507	44,321	-	44,321
2. セグメント間の内部売上高 又は振替高	1	-	1	(1)	-
計	40,816	3,507	44,323	(1)	44,321
営業費用	38,800	3,366	42,166	1,084	43,251
営業利益	2,015	140	2,156	(1,086)	1,070

前年同四半期 (自 平成 18 年 4 月 1 日 至 平成 18 年 6 月 30 日)

事業の種類別セグメント情報については、当連結会計年度より作成しておりますので、前年同四半期の数値は記載していません。

(参考) 前連結会計年度 (自 平成 18 年 4 月 1 日 至 平成 19 年 3 月 31 日)

(単位: 百万円)

	製油関連	その他	計	消去又は 全社	連結
・売上高及び営業損益					
売上高					
1. 外部顧客に対する売上高	150,084	13,309	163,393	-	163,393
2. セグメント間の内部売上高 又は振替高	8	-	8	(8)	-
計	150,093	13,309	163,402	(8)	163,393
営業費用	140,112	12,717	152,830	4,527	157,358
営業利益	9,980	591	10,571	(4,536)	6,035

(注) 1. 事業区分の方法は、原料・製品の種類・性質及び社内管理単位を考慮して行っています。

2. 各事業区分の主要製品

事業区分	主要製品
製油関連	業務用油脂・家庭用油脂・マーガリン・大豆ミール・菜種ミール・食品大豆・飼料・コーンスターチ・加工澱粉等
その他	栄養補助食品・トコフェロール・合成樹脂接着剤・倉庫業・不動産の賃貸・各種サービス等

〔所在地別セグメント情報〕

当四半期及び前年同四半期

在外連結子会社及び在外支店がないため、該当事項はありません。

〔海外売上高〕

当四半期及び前年同四半期

海外売上高がないため、該当事項はありません。